

「日本のリチウムイオン電池・ビジネスモデルと安全性の再構築」

開催日時 2014年1月31日(金) 13:00~16:50(質疑含) 開場 12:30

会場 中央大学駿河台記念館 3F 310会議室 (〒101-8324 東京都千代田区神田駿河台 3-11-5)

受講料 36,750円(税込)

プログラム

1 リチウムイオン電池のビジネスモデルとグローバル競争力 13:00~14:40(質疑含)

講師 佐藤 登 氏 名古屋大学客員教授 兼 エスペック(株) エグゼクティブアドバイザー (前サムスン SDI 常務)

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1 電池の事故・リコールの歴史 | 3.3 サムスンのリチウム電池事業戦略と製品 |
| 2 民生用リチウムイオン電池の動向 | 3.4 素材・部材開発動向 |
| 2.1 リチウムイオン電池の競争力 | 3.5 次世代素材の開発動向 |
| 2.2 安全性評価試験と国際標準 | 3.6 自動車各社の電動化開発動向 |
| 2.3 部材業界の競争力 | 3.7 電動化の市場予測 |
| 2.4 二次電池における知財問題 | 3.8 安全性・信頼性の開発領域 |
| 2.5 日本の電池産業が競争力を失った理由 | 3.9 コスト展望 |
| 3 車載用リチウムイオン電池の動向 | 3.10 次世代将来電池の可能性 |
| 3.1 ZEV 法規発効からの電動化の流れ | 4 グローバル競争力向上のための施策 |
| 3.2 リチウムイオン電池の魅力 | |

2 実務に沿った安全性試験の計画、実施と評価

講師 菅原 秀一 氏 泉化研(株)代表

(元呉羽化学工業 技術担当部長/元三井物産 PM/元 ENAX 先端技術室長)

- | | |
|--|-----------------------------|
| 1 電池の国内外の規格 (JIS と海外の規格、規格案) | 2.6 UL、UN その他の安全性試験と要求事項 |
| 1.1 規格の定める内容と諸規格のマップ | 2.7 電力貯蔵用電池規程 (電気事業連合会) |
| 1.2 基礎特性の測定規格と実施条件(1)JIS C 8711 他 | 3 安全性試験の実施と測定データ例 |
| 1.3 基礎特性の測定規格と実施条件(2)JIS C 8715-1 | 3.1 試験の実施計画、項目の選定と手順 |
| 1.4 海外の規格 (案) と特性パラメーター (USABC、EUCAR ほか) | 3.2 試験に必要な機器類と要点 |
| 2 電池の安全性規格と試験方法 (JIS、UL、UN ほか) | 3.3 試験の測定データの事例と解説 |
| 2.1 安全性規格と試験の性格 (目的、方法と結果) | 3.4 開発プロジェクトでの安全性試験の事例 |
| 2.2 安全性規格などの一覧表と試験の概要 | 4 電池 (セル、モジュール) 輸送関係の規制と実務 |
| 2.3 認証システムへの移行と実例 | 4.1 UN 危険物輸送基準勧告と ICAO・IATA |
| 2.4 電気用品安全法と技術基準 (JIS C 8714 ほか) | 4.2 輸送のカテゴリー (国内、国際、郵便、宅配) |
| 2.5 新JIS C 8715-2 の安全性試験と要求事項 | 4.3 船舶安全法と IMO |
| | 4.4 輸出の準備手順と書類等 |

※ プログラム充実のため内容が変更になることもあります。